

慶尚大学職員交流報告

山口 美 咲 （信州大学附属図書館）

1. はじめに

信州大学附属図書館は、韓国の慶尚大学校図書館と交流協定を結んでいる。その一環として、2014年10月21日から24日まで慶尚大学校図書館へ訪問し、職員交流を行った。以下、慶尚大学校図書館の概要と交流研修の内容について報告する。

2. 慶尚大学校および図書館について

慶尚大学校は、韓国の慶尚南道に位置する国立大学である。晋州市にメインキャンパス（学部は人文・社会科学・自然科学・経営・工科・農業生命科学・法科・師範・獣医科）と医学部キャンパス（学部は医科・看護）、車で1時間ほど離れた統営市に海洋科学部キャンパス（学部は海洋科学）がある。今回私はメインキャンパス内にあるゲストハウスに滞在させていただいた。キャンパスの中心部には学生寮が複数建っており、どんな時間でも学生が行き来しているのが印象的であった。

図書館は、メインキャンパスに中央図書館・学術情報館・文泉閣（古文書図書館）・法学図書館があり、医学部キャンパスには医学図書館、海洋科学部キャンパスには海洋科学図書館がある。

中央図書館は正門正面に位置する6階建ての建物である。1階はエントランス・貸出返却カウンター・パソコンコーナー・企画展示コーナー、2階は事務室、3階は社会科学系の図書と新聞・学位論文、4階は人文科学系の図書、5階は自然科学系の図書・寄贈文庫、6階は大学史資料館となっている。3・4・5階に閲覧席とグループ学習室がある。その他に、1階には売店とカフェ、2階には24時間開放の自習室があるが、これらは図書館の中からは入ることができず、別の入口から入っている。

学術情報館は中央図書館から5分ほどの距離にあり、雑誌はこちらで所蔵されている。建物の3階と地下書庫が学術情報館で、その他のフロアは別に利用されている。閲覧室は二室あり、東洋（韓国・日本・中国）で出版された雑誌と西洋（アメリカ・ヨーロッパ）で出版された雑誌がそれぞれ配架されている。また、データベースの契約とILL業務も学術情報館で対応している。珍しい取り組みとしては、FRICという韓国内の大学で外国雑誌を共同収集するサービスに本年度より参加している。10の大学が参加し、それぞれ特定の専門分野の外国雑誌を収集している（慶尚大学は環境・エネルギー部門を担当）。購入対象は冊子体のみ、予算は国が負担している。

文泉閣は古文書を収集保管しており、現在も慶尚南道地域の郷土資料を収集している。資料はすべて撮影し、写真データをウェブ上で公開している。現在メインキャンパスに新しく博物館を建設しており、完成後はそちらの建物へ移動することになっている。

法学図書館は法学部の建物の1室にあり、法学系の図書・雑誌・データベースを利用できるようになっている。

医学部図書館は医学部キャンパスの建物の1フロアを使用している。職員によると、電子ジャーナル・電子ブックの利用が大半で、来館して資料を利用する学生・教職員は非常に少ないということであった。

海洋科学図書館へは、今回は時間が足りず訪問することができなかった。

3. 研修内容について

私の現在の業務内容から、研修は利用者サービスに重点を置いたものにしていただいた。特に、中央図書館の利用者サービスを詳しく聞かせていただいたので、報告する。

中央図書館の利用者サービス関係の職員は、1階に3人、3・4・5階に2人ずつ配置されている。1階の担当者は貸出返却と学外利用者対応を行い、各階の担当者はその階の資料に関する質問・グループ学習室の利用対応と、その他に別途割り振られている仕事を行っている。慶尚大学の学生をアルバイトとして雇用しており、図書の配架や学習支援などはアルバイト学生が行っている。

1階：エントランス・貸出返却カウンター・パソコンコーナー・企画展示コーナー

総合案内兼貸出返却のカウンターは、常時職員1名とアルバイト学生複数名で担当している。開館時間は9時～21時のため、職員もシフト勤務をしている。

①貸出返却

冊数および期間は、学部生：5冊10日、院生・助教・職員：10冊1ヶ月、教授：30冊6ヶ月、学外者：5冊10日で、長期休暇中は貸出冊数が増加する。

②総合案内

③特別利用証発行

学外者の利用登録と利用証の発行を行う。手数料をとっており日本円で5千円程度。利用終了時には返金をしている。

④延滞図書管理

⑤予約者管理

予約図書が返却されたら自動で予約者へメールが送られる。取置き棚には、その図書の請求記号順で並べている。

⑥キャンパス間配送

定期的な配送便は無く、適宜職員が持って行っている。

⑦釜山慶南国立大学図書館利用証管理

近隣の大学図書館で協定を結んでおり、学生は直接訪問利用することができる。訪問の際には所属大学で利用証を発行してもらい持参する。

⑧協定校以外の利用閲覧依頼書の発行

⑨個人学習室の管理

研究室を持っていない教員や大学院生のための個人学習室が18室ある。学期ごとに申請をし、許可が下りれば専用の個室として利用できる。

⑩紛失図書管理

⑪協定機関利用証発行

一般企業とも協定を結んでおり、利用証を発行している。

⑫利用者ゲート管理

2014年9月より入館ゲートを導入した。学生証・教職員証・特別利用証をタッチする必要がある。まだ慣れていないため、対応に苦慮しているとのこと。

3階：社会科学系の図書、新聞・雑誌、学位論文、閲覧席、グループ学習室5室

その他に、以下の資料提供やサービスを行っている。

①資格試験の問題集コーナー

受験する学生の多い資格試験の問題集を毎年購入している。

②国会図書館・国立中央図書館の資料検索コーナー

協力機関の登録をしており、専用のPC端末から検索が可能。

③Window on America

アメリカ大使館と協定し、関係資料を収集している。

④見つからない本を探して連絡するサービス

アルバイト学生と職員ですべての書架を探し、見つかり次第希望者へ連絡をする。1か月に40件ほど。

⑤新着資料案内サービス

⑥利用者ガイダンス

新入生・在学生・近隣の中高生向けに、図書館や利用方法の案内を行っている。

⑦読書感想文の募集・評価

読書推進の企画の一つ。優秀賞には賞品が用意されている。

4階：人文科学系の図書、閲覧席、グループ学習室6室

その他に、以下のサービスを行っている。

①リーディングクラブの運営

グループごとに課題図書を決め毎週その本について討論をしていく、という活動である。1グループ6～10人程度で、概ね20のクラブが活動している。課題図書は1か月ごとに新しいものを選び、それぞれの課題図書の討論結果はホームページに掲載される。図書館は参加者の募集・決定、課題図書の提供、場所の提供、ホームページの管理、活動状況の把握・審査を行っている。

②新任教員へのガイダンス

大学全体として行う新任教員向けのオリエンテーションの中で、一時間程度の図書館の利用案内を行っている。

③新着資料案内サービス

5階：自然科学系の図書、寄贈の個人文庫、閲覧席、グループ学習室6室

時間が足りず詳しい話は聞けなかったが、リーディングテストの対応と6階の大学史資料館の管理を5階の職員で行っているようであった。

リーディングテストとは、課題の図書（10冊）を読み、Web上の試験を受けることによって単位を取得できる制度である。

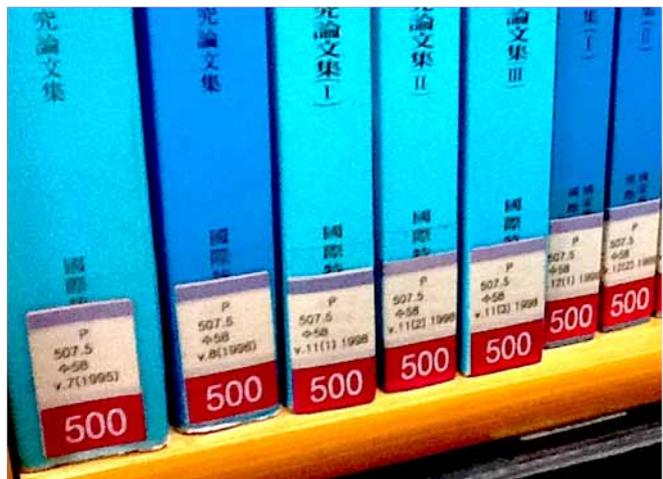
中央図書館は、各階ごとに独立しているイメージが非常に強かった。各階のカウンターに職員個人の事務机もあり、他の階の業務を行うことはないようであった。

利用者から見ると、各階に職員がいてすぐに質問ができるのは良い点だが、質問内容によってはたらいまわしになってしまう可能性があると感じた。

4. 印象に残った点

請求記号ごとに色を決め、その色を効果的に使用していたのが印象に残った。

- 0 紫
- 1 オレンジ
- 2 灰色
- 3 黄色
- 4 青
- 5 赤紫
- 6 赤
- 7 茶
- 8 黄緑
- 9 緑



請求記号ラベルの下、背表紙の下ギリギリの位置に大きく何百番台なのか書かれたシールを貼り、請求記号ラベルの上に2桁目の色がつけられている。写真の場合は請求記号は507.5なので、下が赤紫・上が紫となっている。図書も雑誌も請求記号で配架しており、すべての資料がこの色分けをされている。書架に並んでいる様子を見ると色の違いはすぐに目につくので、配架間違いを防ぐのに効果的だと感じた。

5. おわりに

訪問した際に「今は中間試験の時期で、たくさんの学生が図書館に来て勉強している」「グループ学習室を使う学生が多い」ということを聞き、韓国も日本も大学生の行動は似ていると感じた。そのため、慶尚大学での良い利用者サービスは、信州大学での良い利用者サービスの参考になると考えられる。

今回の研修で知ったこと考えたことを、どのように信州大学の図書館で活かしていくかがこれからの私の課題となるが、何のための・誰のための図書館であるかという視点を忘れずに、根気強く考えていきたい。